



Sen

2022.12.14

※「ソーシャル・エンタープライズ」とは、社会的・地域的課題に事業の手法を用いて解決を図る「社会的企業」を意味します。

Contents

■上期の振り返り	P1	■はたらつく・ざまの報告	P4~5
■ぼらんは4周年を迎えました		■心得講座開催報告	P6
①4周年イベント開催報告		■地域を豊かにするリーダー講座各参加報告	P7
②職場体験実習の受け入れ	P2~3	■オンライン茶話会報告/反町カフェぼらん便り	P8

上期の振り返り

上期は、神奈川におけるワーカーズ・コレクティブ運動の発展をめざし、「ワーカーズ・コレクティブを真ん中におく地域社会づくり」に向けて「新たな中間支援組織設立に向けた検討会」を発足しました神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会、ワーカーズ法対応の連合組織（以下ワーカーズ法準備会）、ワーカーズ・コレクティブ協会、生活クラブ4者により組織機能や実行体制の議論を進めてきました。12月には中間答申（案）をまとめる計画です。

また、「労働者協同組合法（ワーカーズ法）」の施行を広く市民に広報する目的で10月22日「施行記念フォーラム」開催にむけて実行委員会を形成し開催しました。実行委員会には、神奈川県産業労働局、ワーカーズコープ神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会、ワーカーズ法準備会、ワーカーズ・コレクティブ協会、生活クラブ、福祉クラブが参加しました。

就労支援事業においては、座間市ひきこもりサポート事業「みんなの居場所 ここから」が開所2年目を迎え、登録利用者人数が増加。「はたらつく・ざま」の居場所サロンを「居場所ここから」に移行し、サポーターがそれぞれの得意を活かした自前講座を毎月1回開催しました。9月末には神奈川県青少年課と連携して家族セミナーを開催。2人の当事者を招いて、ひきこもり経緯と家族との関係のお話を聞き、充実したセミナーとなりました。「はたらつく・ひらつか」においても、お楽しみサロンや居場所で生活クラブ組合員や市民によるボランティアサポーターが活躍し、実

習協力事業所は6事業所増え、地域に「はたらつく・ひらつか」への理解も広がり、地域づくりを進める意識が少しずつ広がってきたと捉えています。（上田祐子）

